

「子ども会」

「子ども会」をご存じでしょうか。

「子ども会」は、自治会・町内会、学校区等における異年齢・異世代で組織される地域に根差した団体で、地域ごとに特色のある様々な体験・交流活動が展開されてきました。

1980年代に全国600万人以上の児童会員を数えた後、年々、加入者が減少している「子ども会」ですが、現在においても、全国約百数十万人の児童が「子ども会」の会員であり、そして「子ども会」を支える約数十万人の育成者がいるとのこと。

私は、3年前から、全国各地を渡り歩き、各地の子ども会関係者（すなわち各都道府県・市区町村子ども会連合組織の役員等）と出会い、「子ども会」の現状をお聴きし、意見交換をさせていただいています。彼らの多くは、「子ども会」やPTA活動の入口に、子育てが終わってからも地域活動に携わり続け、それら経験の中で多様な他者との関係を築きあげてきた、今や地域活動の原動力たる方々であります。私が、「子ども会、子供の頃楽しかったな。いやあ、懐かしい。」と言うと、「懐かしいとはなんだ！昔のことじゃなく、こっちはずっと子ども会やってるんだ！そもそも子ども会というのはだな・・・」と熱く、そして楽しそうに語ってくださるのでした。

子ども会関係者には中高生年齢相当のジュニア・リーダーや、青年層のユース・リーダー（シニア・リーダー）もいらっしやう。彼らの活動は、児童育成のお手伝いに留まらず、事業の企画や組織の運営、そして、子供・保護者世代の意見や考え方をもとにした、彼らの親・祖父母世代や行政に対する提言を行うにまで至ります。まさに、次世代の地域を担うリーダーの姿です。

私は、地域のつながりの希薄化、特に子育て家庭の孤立化というとても大きな課題に取り組むにあたって、「子ども会」からたくさんの気づきを得ることができました。現代において「子ども会」は、子育て家庭への負担が団体数や会員数の減少につながっているとの指摘もありますが、「子ども会」の未来は決して暗くはないと思います。各地の「子ども会」には、子供や家庭をめぐる教育課題に当事者意識を持ってその解決のために尽力する、その熱い思いと、思いや培ってきたノウハウを次世代につないでいく組織力があるからです。

これからも「子ども会」に学び、そして「子ども会」と連携・協働しながら、学校と地域でつくる学びの未来に向けて邁進してまいりたいと思います。

(I.A)

